

第9回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会記録

日 時：平成4年2月15日

場 所：厚生連高岡病院

地域医療研修室

第9回の研究発表会は、平成4年2月15日、厚生連高岡病院にて、発表演題11題、参加約70名でおこなわれ、活発な討論がおこなわれました。

なお、発表演題名は下記の通りです。

＜プログラム＞

1. 会長挨拶 (13:30～13:40)

2. 会員発表 (13:40～発表時間10分 討論5分)

座長 厚生連高岡病院副院長 豊田 務 (13:40～14:45)

*特別報告 13:40～14:00

高齢化社会とコミュニティヘルス……………越山健二

*一般演題 14:00～16:45 発表時間10分 討論5分

1. へき地山村における成人の難聴について (第2報)

富山県農村医学研究会 ○中村春枝 大浦栄次 豊田 務 豊田文一

2. ネギの皮剥き機騒音の聴力に対する影響

富山県農村医学研究会 ○大浦栄次 豊田 務 藤本ふみ

氷見農業改良普及所 名村桂子 大井正子 南部弘子

氷見市農協 木村朝子

3. 富山県における空中花粉飛散状況と患者発生の時間的関連性

富山医薬大 公衆衛生 ○寺西秀豊 劔田幸子 加藤輝隆 青島恵子 加須屋実

富山県農村医学研究会 大浦栄次

座長 黒部温泉病院院長 渡辺正男 (14:45～15:45)

4. 農薬散布作業者の農薬曝露について

富山県衛生研究所 ○中崎美峰子 林 徹雄

富山県農村医学研究会 大浦栄次 寺中正昭

神戸大学 医学部 佐藤茂秋

5. 日帰り人間ドック受診者におけるスギRAST成績

厚生連高岡病院 ○豊田 務 加藤正義

富山県農村医学研究会 大浦栄次
厚生連高岡検診センター 米田隆子 渋谷直美 棚辺寿美枝 内田順子

6. おやつ摂取状況と食生活の関係

福野町農協 ○大井睦美 高橋真由美
福野町役場 五嶋晴美
福野中部第二保育所 松岡範子
富山県農村医学研究会 大浦栄次

7. 偶然食品中に発見したアニサキスの虫体供覧

南星クリニック ○長谷田祐作

座長 厚生連高岡病院院長 加藤正義 (15:45~16:45)

8. 再受診者における進行胃癌についての検討

厚生連滑川検診センター ○小川忠邦 宮坂 貢 西山幸利 永田広幸
堰下正幸 永田 浩 鶴見裕樹 佐々木正

9. 成人病検診における問診内容の検討

厚生連高岡検診センター ○渋谷直美
富山県農村医学研究会 大浦栄次

10. 検診における空腹時血糖と耐糖能異常との関連について

厚生連滑川検診センター 小川忠邦 ○川口京子
検診センタースタッフ一同

11. 日帰人間ドック受診者の肥満と疾患の関連について

厚生連高岡検診センター ○米田隆子 渋谷直美 棚辺寿美枝 内田順子

3. 閉会 (16:45)

第22回 通 常 総 会 記 録

日時 平成3年6月1日 午後1時30分～
場所 富 山 県 農 協 会 館

I. 総会議事の概要

会 員 総 数 294名 うち出席者92名 委任状130名

会長 挨拶 越山 健二

議長選出 厚生連本所 柳井道之

議事録署名者 富山市 清水忠夫

滑川市 石倉俊宣

書 記 橋本賢治 高木 茂

議 事

第1号議案 平成2年度事業報告書、財産目録、収支決算報告承認について

第2号議案 平成3年度事業計画及び収支予算承認について

第3号議案 定款の一部変更について

第4号議案 役員の改選について

第5号議案 顧問の承認について

特別講演 日本農村医学研究所 主任研究員 浅沼信治氏

演 題 「食の安全に鋭い目を - 広がるポストハーベスト農薬汚染 -」

II. 平成2年度事業報告書

(平成2年4月1日～平成3年3月31日)

I. 事業の概況

平成2年度事業の終了に当り、事業の概況について報告致します。

この20年間、日本農業はかつてない早さで変貌をとげています。本会が創立された昭和40年代中期に比較して、富山県の農家戸数は78,000戸余りから62,000戸へと約20%減少し、農家人口も38万人から29万人、約24%も減少しています。また、農業従事者の男女比は1:1から、現在では男1:女2へ、また60才以上の従事者は24%から45%へと上昇しております。このように農業労働は、婦人や高齢者に多くの負担がかかってきています。

さらに、「米の過剰」により転作面積が急速に拡大し、いままで稲作単作地帯であった富山県では、なれない転作作物の栽培による新たな健康問題も生じてきています。

一方、少ない労働力で効率的な生産を上げるため、集団営農組織や中核農家が育成されています。このような農家では、今までの数倍から数十倍の栽培面積を管理し、労働負担も今までとは比較にならないくらい多くなっています。

本会では、健康で豊かな農村を築くため、以上の課題解決のために会員みなさんと共に、調査研究を続けてまいりました。

昭和45年より続けております農業機械災害事故調査、また、昭和55年より実施しています農業機械以外による農業災害事故調査について、今年度も実施してきました。また、農業機械災害の実際の発生状況を知るため、受傷された方を聞き取り調査を行い、事故発生の原因及び救急医療のあり方についても検討してきました。

農薬中毒の臨床例調査は昭和55年より続けておりますが、あいかわらずバラコートによる中毒が多くみられます。さらに濃度を25%から5%に下げたプリグロックスL等の例も多くなっており、今後とも保管管理の徹底、農薬の安全な取扱いの普及等が必要と考えられました。

昨年度実施した農薬散布者の血中農薬濃度と血液生化学の関係についてさらに検討したところ、血中農薬濃度と多くの肝機能関係の酵素活性が比例して上昇していることが証明されました。これまでは、農薬散布による健康影響はコリンエステラーゼを中心に論じられていましたが、一般的な肝機能にも影響を与えており、散布時における防護の徹底がさらに必要と言えます。なお、本調査の結果に基づき入善農業改良普及所、および調査対象者の皆さんを中心に、より農薬暴露を受けず、環境影響も少ないラジコンヘリを用いた農薬散布の試みが県内で始めて行なわれ、今後の展開が期待されます。

大豆の脱穀粉塵について、今年度は大豆コンバインによる粉塵の浮遊状況について調査しましたが、前年度と同様オペレータの顔面付近に最も多く粉塵が集中しており、防護の徹底が望まれました。また、農作業に伴う騒音について、ライスセンター内、作業時のコンバインについて測定し、これらの作業従事前後の聴力を測定したところ、多くの人に一過性とも考えられますが、聴力の低下がみられました。その他、富山県内の空中花粉調査も農協組織等と協力し継続的に実施しております。

農村における健康状態の把握に関する調査研究も引続き実施しております。高岡、滑川の農村検診センターにおける健康調査、各地における汁塩分調査と保健調査等、農村における健康状態の解明のための調査研究を行なってきました。

なお、以上の課題のうち農薬中毒に関する調査は厚生科学研究の一部としても実施しました。

これらの研究成果は、郡山市で開催された第39回日本農村医学会、第8回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会等、各種学会や本会会誌等で発表しています。

以上、本会の活動は医療関係者はもとより行政、農協、及び農村の健康問題に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでまいりたいと思いますので、会員各位の絶大なるご協力をお願い致します。

最後に、県当局、農協各連より絶大なるご援助をいただいておりますことに対して厚くお礼申し上げます。

II. 主な事業項目の概要

I. 総会（平成2年6月9日、富山県農協会館）

① 議 事

- ・平成元年度事業報告、収支決算承認
- ・平成2年度事業計画、収支予算案承認
- ・役員の一部改選について、顧問の一部変更承認について

② 特別講演

講師 井波町 了泉寺住職 武 種 晃師

演題 「どう生きる 一人のいのちと動物のいのち」

II. 研究調査活動

(1) 農業災害に関する調査研究

①富山県における農業機械災害事故調査

昭和45年より実施している農業災害事故調査を県内全ての整形外科、外科、接骨院700カ所余りを対象に実施した。今年度は昨年度と同様一次調査として災害事故例の有無について調査し、「症例有り」との回答があった医療機関に詳細報告を求めた。特に、今年度は一次調査を前期（1～8月）、後期（9～12月）と2度実施した。

その結果、詳細報告数は74件で、最も多かったのはコンバインであり、ついでトラクターであった。特に死亡が3例あり、トラクター2（共に女性）、コンバイン1であり、50才以上の者であった。件数の増減は殆どないものの、死亡者が増加しており改めて農作業安全の徹底が必要と考えられた。

②富山県における農業機械以外の農業災害事故調査

昭和55年より行なっている標記調査について、前期と同様一次調査、詳細調査を行なった。

その結果、例年通り、受傷年令は高齢者が多く、かつ重いものをもつての挫傷等が多かった。今後、農業従事者の高齢化が進むにつれ、さらに問題となると考えられ、作業改善や集団営農等による共同作業等により、身体負荷の軽減方策について検討することが必要と考えられた。

③農業機械災害事故のケーススタディー

平成元年度に農業機械により受傷した人を対象に災害事故の発生状況、及び救急医療のあり方について聞き取り調査をした。その結果、救急体制では、共同作業者の存在が極めて重要であり、一人作業の危険性がうきばりとなった。また、共同作業においては作業者間の作業手順の打ち合わせ、精神的なものを含めたコミュニケーションが重要であることが明らかになった。

(2) 農薬中毒に関する調査研究

①富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解明

昭和55年より県内の内科、外科、小児科、眼科、皮膚科を標榜する医療機関全てを対象に農薬中毒の臨床例の有無を調査してきた。本年度も同様の方法にて一次調査として、農薬中毒臨床例の有無の調査を行い、「症例有り」と回答のあった医療機関に詳細報告を求めた。なお、一次調査は前期（1～8月）と後期（9～12月）の2回実施した。

その結果、715医療機関中前期は498機関（回答率69.7%）、後期は436機関（回答率61.0%）より回答があった。全体の回答率は65.3%であった。このうちパラコート中毒例15例、それ以外が12例あった。これらの医療機関にさらに詳細報告を求めた。

詳細報告事例では、昭和61年度に販売が既に停止されたグラモキシソンによる症例や、パラコート濃度を低減したプリグロックスLによる症例も報告され、今後とも農薬の保管管理についての啓蒙教育が必要と考えられた。

②水田農薬散布者の血中農薬濃度と血液生化学的影響に関する調査

昨年実施した農薬散布前後の生体影響について、血中農薬濃度と血液生化学的影響について検討した。

その結果、散布後の血中農薬濃度と散布前後の GOT, GPT, ALP, CPK, アルドラーゼ等の上昇率とが比例していることが証明された。これまでは農薬の急性中毒や農薬散布集団と非散布集団の比較において、農薬が肝機能等に影響を及ぼすことは示されていたが、量-反応関係を証明したものではなかった。今回、例数は少ないものの農薬暴露量の指標である血中農薬濃度が上記の項目と比例していることを明らかにすることができた。

今後、他の種類の農薬について散布者の性、年齢と生体影響の関係について同様の手法により確認する必要があると考えられた。

(3) 大豆脱穀粉塵に関する調査研究

昨年はビーンスレッシャーによる大豆脱穀粉塵の分布について調査した。今回は、大豆コンバインによる粉塵の垂直分布について調査したが、ビーンスレッシャーと同様、オペレーターの顔面近くに多くの粉塵が分布しており、今後とも粉塵対策、及び健康への影響の検討が必要と考えられた。

(4) 農村における各種健康調査

① 農村地域におけるみそ汁塩分調査

入善町農協管内、高岡市太田地区、氷見市稲積地区において約1,700件のみそ汁の Na, Cl, K の分析及びみそ汁に関するアンケート調査を実施した。

その結果、昨年と同様ダシの種類、具の数により塩分濃度が変わることが明らかになった。つまり、ダシでは天然ダシの方が、具は多いほうが塩分濃度が低かった。今後の「減塩」運動においては、単にみそ汁の摂取杯数を少なくするだけでなく、みそ汁の内容についても指導する必要があることが明らかになった。

② 農村における癌検診受診率に関する調査研究

現在、癌検診は市町村のみならず各種団体が取り組んでおり、地区内の真の癌検診受診率は不明である。そこで、みそ汁塩分調査を行なった上記の地区において、成人を対象に胃癌、子宮癌、乳癌の癌検診受診の有無及び、未受診者にはその理由を質問した。その結果、地区および年齢により癌検診受診率に大きな差があり、特に癌死亡率が高くなる50才以上の者の受診率が低かった。また、未受診理由の主なもの「元気だから」が半数以上を占めており、今後、検診受診の意義をさらに徹底させる必要があると考えられた。

(5) 富山県における空中花粉調査

県内の農協等の協力を得て、春先の空中花粉の飛散状況調査を7ヶ所で実施した。これまで、富山県においては広域的な空中花粉の基礎資料がなく、本調査により、次第に県内の空中花粉の飛散状況が明らかになりつつあり、今後花粉情報の提供、また、農村における花粉症等のアレルギー疾患の予防にも役立つと考えられる。

(6) 農村における緑の調査研究

近年、樹木の伐採や大気汚染により緑の消失が問題とされ、特に、このままの速度で森林資源が消失すれば地球環境や人間の健康に重大な影響を及ぼすと言われている。

そこで、農村における身近な屋敷林や神社の樹木の活力度や本数がどのように変遷したかについて高岡市内、及び礪波の散居村の身近な緑についてアンケート並びに杉の木の活力度調査を行なった。

その結果、ここ20年間に屋敷林の杉の本数が半数に、果樹が7割に減少していることが明らかになった。また、杉の活力度は平野部の散居村のものに比較して高岡市内のものがより低下しており、大気汚染との関係も否定できなかった。今後とも農村の緑の保全のため継続調査が望まれた。

(7) 農村検診センターにおける検診結果と、今後の農村における保健活動の課題

農村検診センターにおける約6,000人の受診者の検診結果の分析を通じ、今後の農村における健康管理の課題について検討した。

Ⅲ. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 学会等への参加

第39回日本農村医学会

- ・開催日時 平成2年10月25、26日
- ・開催場所 郡山市
- ・会員発表 富山県より5題

(2) 第8回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

- ・開催日時 平成3年2月9日(土)
- ・開催場所 厚生連高岡病院 地域医療研修室(1)
- ・会員発表 10題(参加者約70名)

Ⅳ. 会誌第22巻の発刊

Ⅲ. 主な行事 (平成2年4月1日～平成3年3月31日)

年 月 日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
2. 4. 1	空中花粉定点観測 (2. 2/20～4/30)	井波農協, 立山町農協, 厚生連看護専門学校, 厚生連滑川病院, 太田小学校, 黒部農協の各 屋上
4. 17	平成元年度第3回理事会	厚生連会議室
5. 25	平成元年度第4回理事会	厚生連会議室
6. 9	第21回総会	富山県農協会館
6. 7	山村住民耳鼻咽喉科検診, および学童のアレルゲンテスト (6/7・21, 7/5)	利賀村 (豊田, 寺西他)
7. 8	高岡市, 緑の調査	高岡市農協青年部他
8. 2～3	第12回富山県農村の健康会議	高岡・滑川病院
9. 10～	農作業に伴う騒音調査 (9/10・12)	高岡
9. 14	平成2年度第1回理事会	厚生連会議室
9. 21	厚生科学研究農薬中毒班会議	東京 (寺中, 大浦)
10. 22	大豆脱穀粉塵調査	高岡
10. 25～26	第39回日本農村医学会	郡山市 (発表演題5)
11. 18	みそ汁塩分調査 (11/18・25)	高岡市太田
	〃 (12/4・12)	入善町
12. 11	平成2年度第2回理事会	厚生連会議室
3. 1.	平成2年度農薬中毒実態調査 平成2年度農業災害事故調査 農薬の慢性生体影響に関する調査	滑川検診センター(渡辺他)
1. 25	平成2年度第3回理事会	厚生連会議室
2. 9	第8回富山県農村医学研究及び健康管理 活動発表集会	厚生連高岡病院 (約70名参加)
3. 6	農業機械安全性研究班会議	東京 (大浦)
3. 15	豊田会長逝去	
3. 18	豊田会長葬儀, 合同告別式	

平成 2 年度収支決算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会 費 収 入	253,000	294,000	41,000	
会 費	253,000	294,000	41,000	294人×1,000円
助 成 金	1,800,000	1,800,000	0	
助 成 金	1,800,000	1,800,000	0	富山県より
特別負担金	4,680,000	4,680,000	0	
特 別 負 担 金	3,480,000	3,480,000	0	4 連×870,000円
調査研究協力費	1,200,000	1,200,000	0	厚生連より繰入
受 託 料	100,000	100,000	0	
受 託 料	100,000	100,000	0	県より農機災害調査委託費
雑 収 入	7,390	33,522	26,132	
雑 収 入	7,390	33,522	26,132	利息等
前期繰越金	409,117	409,117	0	
収 入 計	7,249,507	7,316,639	67,132	

支出の部

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会 議 費	550,000	555,325	5,325	
総 会 費	150,000	131,129	-18,871	
役 員 会 費	400,000	424,196	24,196	
事 業 費	6,180,000	5,714,169	-465,831	
研 究 調 査 費	3,600,000	3,388,858	-211,142	各種調査研究費
専 門 委 員 会 費	50,000	0	-50,000	" 打合せ等
研 究 集 会 費	730,000	485,734	-244,266	日本農村医学会等参加費
会 誌 発 行 費	1,300,000	1,584,091	284,091	第21巻発行費
編 集 委 員 会 費	50,000	1,400	-48,600	
通 信 費	200,000	110,479	-89,521	
消 耗 品 費	150,000	143,607	-6,392	
備 品 ・ 什 器	100,000	0	-100,000	
旅費交通費	230,000	141,660	-88,340	
旅 費 交 通 費	230,000	141,660	-88,340	
事 務 費	240,000	240,000	0	
事 務 費	240,000	240,000	0	20,000円×12ヶ月
雑 費	20,000	120,527	100,527	
雑 費	20,000	120,527	100,527	
予 備 費	29,507	0	-29,507	
予 備 費	29,507	0	-29,507	
支 出 計	7,249,507	6,771,681	-477,826	
次期繰越金		544,958		

平成3年度事業計画

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
 - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体影響に関する調査研究
 - ・農薬中毒の実態調査
 - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
 - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
 - ・農村における高齢者に関する調査研究
 - ・社会変動による農業従事者の健康に及ぼす影響についての調査研究
 - ・都市近郊農村における社会医学的研究
 - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
 - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

I. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究
 - ①富山県における農業機械災害事故調査
 - ②富山県における農業機械以外の農業災害事故調査
 - ③農業機械災害事故のケーススタディ

(2) 農薬中毒に関する調査研究

- ① 富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解析
- ② 農薬散布者の健康調査
 - ・ 農薬散布前後の健康調査並びに尿中代謝物の検討
 - ・ 農薬の慢性生体影響に関する調査研究
- ③ 農薬取扱い者の農薬に対する意識に関する調査研究

(3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究

- ① 農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ・ 富山県における空中花粉の飛散状況調査（井波他6カ所）
- ② 農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究

(4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究

- ① 各種農作業姿勢と健康障害に関する調査研究
- ② 農作業姿勢からくる健康障害の改善方策に関する調査研究
- ③ 大豆脱穀等粉塵による健康障害に関する調査研究

(5) 農山村における騒音による聴力障害等に関する調査研究

- ① 農業機械の騒音分析
- ② 農山村住民の聴力損失に関する調査研究

(6) 農村における環境汚染と健康障害に関する調査

(7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究

- ① 食生活と健康に関する調査研究
- ② 農村生活の変化と健康障害に関する調査研究

(8) 農村におけるプライマリーヘルスケアの確立に関する調査研究

- ① 農村における健康管理運動の確立に関する調査研究

(9) 農村における高齢者に関する調査研究

- ① 高齢者問題に対する農村住民等の意識調査
- ② 在宅ケアのあり方に関する調査研究

(10) その他、農村における各種保健調査、健康調査の実施

- ① 肥満、アルコール、肝疾患等の調査研究
- ② 農村における成人病に関する調査研究
- ③ その他

II. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 学会等への参加

- ① 第40回日本農村医学会（平成3年10月、旭川市）
- ② 第11回国際農村医学会（平成3年11月、北京市）
- ③ その他、学術交流

(2) 第9回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催

（平成4年2月、厚生連高岡病院）

Ⅲ. 会誌等の印刷物の発刊

- ①富山県農村医学研究会誌第23巻の発刊
- ②「豊田文一先生を偲ぶ（仮題）」の発刊
- ③その他

Ⅳ. その他目的達成に必要な事業

平成3年度収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
会 費 収 入	294,000	
会 費	294,000	294人×1,000円
助 成 金	1,800,000	
助 成 金	1,800,000	富山県より
特別負担金	4,680,000	
特 別 負 担 金	3,480,000	4連×870,000円
調 査 研 究 協 力 費	1,200,000	厚生連より繰入
受 託 料	100,000	
受 託 料	100,000	県より農機災害調査委託費
雑 収 入	33,522	
雑 収 入	33,522	利息等
前期繰越金	544,958	
収 入 計	7,452,480	

支出の部

項 目	金 額	備 考
会 議 費	570,000	
総 会 費	170,000	
役 員 会 費	400,000	
事 業 費	6,400,000	
研 究 調 査 費	3,300,000	各種調査研究費
専 門 委 員 会 費	50,000	" 打合せ等
研 究 集 会 費	600,000	日本農村医学会等参加費
会 誌 発 行 費	2,000,000	第22巻発行費
編 集 委 員 会 費	50,000	
通 信 費	150,000	
消 耗 品 費	150,000	
備 品 ・ 什 器	100,000	
旅費交通費	200,000	
旅 費 交 通 費	200,000	
事 務 費	240,000	
事 務 費	240,000	20,000円×12ヶ月
雑 費	20,000	
雑 費	20,000	
予 備 費	22,480	
予 備 費	22,480	
支 出 計	7,452,480	

定款の変更について

第3章 役員および顧問等

現 行	改 正 案
(種別および選任) 第11条 この法人に役員として理事10人以上25人以内および監事2名をおく。 2 役員は総会において選出する。 3 理事は互選により会長1人を定める。 4 理事および監事は相互に兼ねることができない。	(種別および選任) 第11条 この法人に役員として理事10人以上25人以内および監事2名をおく。 2 役員は総会において選出する。 * 3 理事は互選により会長1人を定めるものとし、また必要に応じて副会長2人、常務理事1人を定めることができる。 4 理事および監事は相互に兼ねることができない。
(職 務) 第12条 会長はこの法人を代表し、会務を統括する。 2 理事はあらかじめ会長に事故あるとき、または会長が欠けたときその職務を代行するものを定めておくものとする。 3 理事は、理事会を構成し会務の執行を決定する。 4 監事は、民法第59条の職務を行なう。	(職 務) 第12条 会長はこの法人を代表し、会務を統括する。 * 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。 * 3 常務理事は会長、副会長を補佐し、会長、副会長に事故あるときは、会長の職務を代行する。 4 理事は、理事会を構成し会務の執行を決定する。 5 監事は、民法第59条の職務を行なう。

付則 この定款の一部変更は、富山県知事の認可のあった日から施行する。

役員・顧問名簿

理事				役	職
越山健二	福岡隆	富田利次	齋田道男	倉本安隆	中田慶子
石田礼二	寺中正昭	館野政也	熊谷武夫	黒崎正夫	中藤康俊
長谷田祐作	渡辺正男	西能正一郎	北川鉄人	龍沢俊彦	小川忠邦
川東正範	八木信一	秋元敏夫	前田正稔	竹部喜代子	仕切義宣
埜村美智代					
監事				役	職
加藤正久	藤義雄				
顧問				役	職
中正池	沖橋正	田友二	瀬田肇	成瀬弘生	松井信勝
戸谷徳一	大角秀尚	吉田與治	江西甚昇		
				富山県知事	
				富山県市長会 会長	
				富山県町村会 会長	
				富山県医師会 会長	
				富山県厚生部長	
				富山県農業水産部長	
				富山県農協中央会 会長	
				富山県信連 会長	
				富山県経済連 会長	
				富山県厚生連 会長	
				富山県共済連 会長	

投 稿 規 定

募 集 原 稿 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

投 稿 の 資 格 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

原稿の送り先 富山県農村医学研究会事務局宛（富山市新総曲輪2番21号富山県厚生連内）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

論文の原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま(Pasteur, Prostigmin等)とし、動植物名は日本名の次に学名(ローマ字 *Mocacus rlesus*, 山椒藻 *Salvinabatah*等)を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートル m, センチメートル cm, グラム g, キログラム kg 等。
3. コンマ (,) ピリオド (.) コロン (:) ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。

(図表は、特殊なものを除いては、出来上がり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。)

図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。

5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。

6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記(末記)して下さい。

無 料 掲 載 原稿用紙20枚(刷上がり5頁)までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

有 料 掲 載 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名(雑誌指定の略号)、巻数(号数)、頁一頁、発行年月(昭和52. 5のごとく。)
2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月(必要ならば引用の箇所の頁を最後に)

印 刷 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

編 集 後 記

会誌第23巻，大変遅くなりましたがお届け致したいと存じます。

毎年切り換えや医療費改定の結果が見られる時期などと輻輳した関係もあり恐縮致して居りますが，誌面の方はフレッシュな顔触れが見られ，学会などもバラエティに富み，会員便りも……などと内心自負しておりますがご感想など事務局あてお寄せ頂ければ幸甚と存じます。

なお今回の編集会議で強調されたのは原稿締切り期日の件でした。3月末ということだとどうしても今年のようなことになり勝ち，せめて2月末か1月末ということにならないかという意見，もつとも当日はできるだけ早い機会に役員会で検討してもらいましょうということで話は終わった。

(H・Y)

編 集 委 員 越山健二，長谷田祐作，渡辺正男，北川鉄人

富山県農村医学研究会誌 第23巻平成4年3月25日印刷・3月31日発行

富山市新総曲輪2番21号・富山県厚生連内 電 話 富山 (0764) 45-2307

編集，発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 膳 亀 悠紀雄

印 刷 所 中央印刷株式会社 富山市下奥井町 電話 (0764) 32-6572
